

昨年8月に「商店街の活性化のための地域住民の需要に応じた事業活動の促進に関する法律（通称：地域商店街活性化法）」が施行され、本県ではこれまでに「大館市大町商店街振興組合」と「鹿角市花輪大町商店街振興組合・鹿角市花輪新町商店街振興組合」が商店街活性化事業計画の認定を受けました。

今回のトピックスでは、上記の商店街が認定を受けた内容と、今後の取り組みについてご紹介します。

多目的通路「ハチ公小径」を核とした 地域活性化！ ～大館市大町商店街振興組合～ (平成21年10月認定)

大館市大町商店街振興組合（横井伸一理事長、156組合員）では、商店街の賑わい創出と地域の活性化を目指して、「ハチ公小径（こみち）」を活用したイベント開催とインキュベーター施設の設置、「ハチ公ヤートセ祭り」の開催、ポイントカードシステム導入事業等に取り組んでいる。

3月には従来のスタンプカードからポイントカードへの切り替えを行い、4月には広場としても活用できる多目的通路「ハチ公小径」が完成した。夏には商店街での新たなお祭りとして「ハチ公ヤートセ」を開催する。



「ハチ公小径」は街区内の廃業した老舗百貨店（旧正札竹村）ビルの一部を解体し、その跡地に作られた長さ約60mの通路であり、同ビルの所有者である大館市から本組合が無償で借り受けて運用する。

同組合では「ハチ公小径」の広場に大型スクリーンを整備し、スポーツ大会の観戦会や、コンサートも開催できるようにした。

また、イベントは一過性のものなので、日常的な活動に補助金を活用したいとの考えから、「ハチ公小径」の両サイドに同組合が8基の飲食・物販ブースを整備する予定となっている。当施設は、起業者支援施設として整備するもので、出店

した起業者に一定期間営業してもらい、期間満了後は商店街の空き店舗に出店を促すという取り組みである。本年7月中旬の開店を予定している。



「ハチ公小径」
(両サイドには、今後ブースが設置される。
右上は大型スクリーン)

同組合の横井伸一理事長は、「街区が寂れていくのは我々にも責任がある。お年寄りも近場で買える物ができ、人とのふれあい、会話がある商店街にしたい。地域住民のために行動すると自然と人々にも集まっていただけると思う。市民に『いい街があるから行こう』と言ってもらえるように、心豊かに過ごしていただける地域にしたい。」と話している。

また、泉浩二副理事長は、「厳しい経済情勢で、笑っていただける状況ではないが、笑っていなければ進まない。地域コミュニティの核として楽しんでいただける商店街にして、まちなか居住、まちなか雇用を促進したい。」と話している。



「ハチ公小径」オープニング・イベントの様子

地域の回遊性を高め賑わいを創出！
～鹿角市花輪大町商店街振興組合・
鹿角市花輪新町商店街振興組合～
(平成 22 年 3 月認定)

鹿角市花輪大町商店街振興組合（石木田幸一郎理事長、60 組合員）と鹿角市花輪新町商店街振興組合（山崎敏雄理事長、36 組合員）では、隣り合う商店街としてともに地域の回遊性を高める街づくりに取り組む。

両商店街では、街区内の大型食品スーパーの空



き店舗を利用して産地直売所などを開設する他、老朽化したアーケードをリニューアルし、商店街の歩道にタイルを整備して「健康散歩ロード」を設置する。

「健康散歩ロード」は、夜に商店街をウォーキングしている人が多いことからヒントを得て考案した。安全・快適に歩けるだけでなく、イベント性を加えて、買い物をする人たちに快適に商店街全体を歩いてもらい、各店舗を回ってもらうことで楽しめる仕組みを企画している。

鹿角市花輪大町商店街振興組合の石木田幸一郎理事長は「マンネリ化を見直し、各個店の魅力を上げて、賑わいのある地域にしたい。」と話している。



石木田幸一郎理事長

**秋田県内の6支援機関による中小企業応援センター
「あきた中小企業応援ネットワーク」
の事業がスタートしました。**

4月1日より、県内の6つの中小企業支援機関が相互に連携し、経済産業省東北経済産業局からの委託を受けて「中小企業応援センター事業」を実施することになりました。

本会会員組合のみならず、組合員企業の皆様に対しても個別に支援することができますので、組合員の皆様にもご案内をお願いします。

応援センターの活用イメージは、下記のとおりです。

